

ぶらりわが街宮沢界限

(28) 近世行政区画の変遷 -III- 昭島市の誕生(東京都で7番目)

○ 昭島市ができるー福生町と合併?ー明治35年(1902)、九ヶ村組合村から拝島村が分離して以来、拝島村と昭和町は、地域的な結びつきあるものの、政治的には別々でした。産業の安定、住宅の建設と次第に発達してきた昭島の地域は、昭和28年(1953)には、昭和町と拝島村を合わせた人口が3万4千人を超えました。人口の増大により、福祉・教育・厚生などの公共施設の拡充が必要となりましたが、このような公費事業の拡充は、一町村の負担は大きいものでした。また、交通が発達し、地域ごとの結びつきは一層便利になってきていました。昭和28年(1953)9月、政府は「町村合併促進法」を公布し、地方自治体の基盤の強化と、地方行政の合理化をはかろうとした。そこで昭和町は、合併による市制を実施することを計画しました。当時の市制を施行する主な要件については、

- ① 人口が3万以上であること
- ② 中心の市街地を形成している区域内にある戸数が、全戸数の6割以上であること
- ③ 商工業その他の都市的業態に従事する者、およびその者と同一所帯に属する者の数が、全人口の6割以上であること。

昭和町は、この要件うち ①の人口基準に達していなかったため、早くから拝島村との合併により市制を施行する構想を持っており、それが、促進法の施行を機に急速に具体化した。昭和29年(1954)、拝島村との合併を議決し、拝島村に申し入れをしたが、拝島村では、福生町からも同様な申し入れがあったので、昭和・拝島・福生の3町村での合併を決定し、福生町へそれを申し入れた。しかし、福生町が拒否したため、拝島村は、改めて方針を検討し直し、昭和町とは、同じ北多摩郡に属し(*福生町は西多摩郡)かつて連合村をつくっていたこと、登記所等の関係官庁も同じなどの理由に、昭和町との合併推進することになり、3月13日に「町村合併に関する覚書」を昭和町長・拝島村長及び両議会議長名で調印、両議会の議決(3月13日昭和町議会・翌14日拝島村議会が合併による昭島市制を可決)をもとに、3月15日市設置の申請書を東京都に提出。かくて昭和29年(1954)5月1日、東京都で7番目の「昭島市」が誕生しました。当時の人口は、36,482人、所帯数は8,113戸でした。昭島の市名は、両町村の恒久的和合と団結および、合併により一つとなることを祈念(きねん)として、昭和町の「昭」と拝島村の「島」をとり命名され、地名の由来がこれほど明確なものは、周辺を見回しても殆どありません。

○ 「覚書」で新庁舎が出来るまで昭和町役場(現在地・中神町2-32-18シルバー人材センター)を市役所にし、拝島村役場を支所とし、建築する新庁舎の位置は地理的に中心部とすることにより、昭和32年(1957)10月21日上川原町381(現・昭和町4-7-1)に新庁舎を完成(現・保健福祉センター「あいぼっく」<平成13年(2001)10月1日開館>)平成9年(1997)5月6日に田中町1-17-1へ移転し、新庁舎で業務開始までの40年間置かれた。

記 防犯宮沢支部 西山 禎一

年次	人口	世帯数
大正14年10月	6,786	1,114
昭和5年10月	7,505	1,267
昭和10年10月	7,680	1,313
昭和15年10月	1,3936	2,895
昭和18年	33,699	6,389
昭和20年11月	1,8675	—
昭和25年10月	3,1692	7,217
昭和30年10月	3,8519	8,544
昭和35年10月	4,4805	1,0422
昭和40年10月	5,9655	1,5000
昭和45年10月	7,5662	2,1804
昭和50年10月	8,1203	2,5243
昭和55年1月	8,9303	3,0474

